

厚生労働省 医政局 医事課
試験免許室 御中

一般社団法人 日本作業療法士協会
会 長 中 村 春 基

第57回作業療法士国家試験問題について（意見）

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より当協会のご活動にご支援ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、2月20日に実施されました第57回作業療法士国家試験問題につきまして全国の作業療法士学校養成施設に問題の妥当性についてアンケート調査を実施しましたところ、210校(220課程)中113校54%から「適切でないと思われる」とする回答がありましたので、それらの回答について次の3つの方針に基づいて検討を行いました。

- (1) 全国の作業療法士学校養成施設から寄せられた「国家試験として適切でないと思われる問題」のみを検討の対象とすること。
- (2) 当協会担当部署においてさらに検討を重ね、「国家試験として適切でないと思われる問題」に限定して意見を具申すること。
- (3) 国家試験問題の範囲や難易度についての意見を具申するものではないこと。

その結果、設問内容の適切さ及び出題形式（図や設問の説明）について下記の意見を述べさせていただきます。また、特に検討していただきたい9問題（午前5問題、午後4問題）につきましては、別紙に内容を記載し、併せて具体的な理由を付記いたしました。

ご検討の程よろしくお願い申し上げます。

謹 白

記

- I 複数の解が選択できると思われる7問題（午前28、51、71、85、100、午後5、25）について、複数の選択肢を正解とすることが望ましいと考える。また、提示された選択肢からは解を選択する判断ができないと思われる2問題（午後2、68）について、採点から除外することが望ましいと考える（別添資料1-1～1-9参照）。
- II その他の意見
用語や設問の表現が不適切であり選択肢の理解に戸惑う6問題（午前24・31・88、午後6・21・38）、消去法や優先順位等から解は選べるものの該当すると言い切れない2問題（午後26・99）消去法や優先順位等から解は選べるものの他の選択肢も該当する可能性がある8問題（午前3・8・33・45・57、午後9・35・39）があると考え。

第 57 回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(令和 4 年 2 月 20 日実施)

午前 問題	問題番号 (28)
<p>28 上肢の形態計測と方法の組み合わせで正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 上腕周径———上腕の最大周囲の長さ2. 上肢長———肩峰から中指先端までの長さ3. 前腕長———肘関節中央部から手関節中央部までの長さ4. 手 長———三角骨と大菱形骨を結ぶ線の midpoint から中指先端までの長さ5. 手 厚———第 1 中手指節間関節部での手背面から手掌面までの直線距離 <p>解 : 1、2 (複数の解が選択できる)</p>	
<p>理由</p> <p>文献 1 より</p> <ol style="list-style-type: none">1. 上腕周径は上腕の最大囲(上腕二頭筋の最大膨隆部)の周囲の長さであるため選択肢「1」は正しい。2. 上肢長は肩峰点から中指の指先点までの長さ、または肩峰点から橈骨茎状突起(茎突点)までの長さを測るとあるため選択肢「2」は正しい。3. 前腕長は橈骨点から茎突点までの長さ、上腕骨外側上顆から橈骨茎突点までの長さのため選択肢「3」は誤っている。4. 手長は橈骨と尺骨の茎状突起を結ぶ線の midpoint と中指の指先点の長さのため選択肢「4」は誤っている。5. 手厚は第3中手指節間関節部での手背と手掌の直線距離、手の厚さのため選択肢「5」は誤っている。 <p>したがって、選択肢「1」、「2」の複数の解が選択できる。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1. 作業療法評価学第3版. 医学書院. pp68-70. 2020	

第57回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(令和4年2月20日実施)

午前 問題	問題番号 (51)
<p>51 関節円板を有する関節はどれか。2つ選べ。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 遠位橈尺関節2. 肩関節3. 胸鎖関節4. 橈骨手根関節5. 腕尺関節 <p>解： 1、3、4 (複数の解が選択できる)</p>	
<p>理由</p> <p>文献1、2、3より</p> <ol style="list-style-type: none">1. 「遠位橈尺関節の関節腔の下壁は関節円板であり、これによって、橈骨手根関節の関節腔とは隔てられる」ことから、選択肢「1」は関節円板を有する。2. 選択肢「2」の肩関節には関節円板はない。3. 「胸鎖関節は、関節円板によって完全に二分される」ことから、選択肢「3」は関節円板を有する。4. 「橈骨手根関節は、橈骨遠位端下面と関節円板を関節窩とし、舟状骨・月状骨・三角骨を関節頭とする」ことから、選択肢「4」は関節円板を有する。5. 選択肢「5」の腕尺関節には関節円板はない。 <p>したがって、「1」、「3」、「4」の複数の解を選択することができる。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1. 野村巖編集：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学. 第5版, 医学書院. p123, pp130-133, 2020.2. 坂井建雄監修：PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 解剖学. 第1版, 羊土社, p. 55, pp60—61, 2018.3. 中村隆一著：基礎運動学. 第6補訂, 医歯薬出版, p. 71, p. 229, 2020.	

午前 問題	問題番号 (71)
<p>71 手関節橈屈に作用する筋はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 長掌筋2. 短母指屈筋3. 長母指屈筋4. 短母指外転筋5. 長母指外転筋 <p>解： 3、5 (複数の解が選択できる)</p>	
<p>理由 文献1. 2. 3より 橈屈に作用する筋には、短橈側手根伸筋、長母指伸筋、短橈側手根屈筋、長母指外転筋、長母指屈筋がある。</p> <p>したがって、選択肢「3」と「5」の複数の解が選択できる。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1. Donald A. Neumann : 筋骨格系のキネシオロジー第3版, 医歯薬出版. p. 266, 2018.2. 市橋則明 編集: 身体運動学, メジカルビュー社. p. 144, 2017.3. 山崎敦: PT・OT ビジュアルテキスト 専門基礎運動学第1版, 羊土社. p. 190, 2019.	

第 57 回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(令和 4 年 2 月 20 日実施)

午前 問題	問題番号 (85)
<p>85 言語発達で正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 喃語は6か月ころからみられる。2. 有意味語の発語は8か月ころからみられる。3. 言語的意味理解は10か月ころからみられる。4. 2語文の発語は1歳ころにみられる。5. 言語獲得の臨界期は3歳ころである。 <p>解：1、3（複数の解が選択できる）</p>	
<p>理由</p> <p>文献1において、6か月より喃語がみられることが記載されており、選択肢「1」は正しい。 また、文献1・2において「10か月時には言語理解も進み「バイバイ」や「さようなら」の言葉に反応できるようになる」と記述されており、選択肢「3」も正しい。</p> <p>したがって、選択肢「1」、「3」の複数の解が選択できる。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1. 上杉雅之 監修：イラストでわかる人間発達学. 医歯薬出版. p159, 206, 2015.2. 遠城寺宗徳著：遠城寺式乳幼児分析的発達検査法. 慶應義塾大学出版. P48, 2017.	

第 57 回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(令和 4 年 2 月 20 日実施)

午前 問題	問題番号 (100)
<p>100 ベンゾジアゼピン系睡眠薬の副作用はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 下痢2. 運動失調3. アカシジア4. 逆行性健忘5. Parkinson症候群 <p>解：1、2（複数の解が選択できる）</p>	
<p>理由</p> <p>ベンゾジアゼピン系睡眠薬の添付文書及び下記の文献には、副作用として「下痢」、「協調運動失調」、「運動失調」の記載がある。</p> <p>したがって、選択肢「1」、「2」の複数の解が選択できる。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1. 高久史麿, 矢崎義雄 監修：治療薬マニュアル 2021, 医学書院. p. 164, 167, 169, 172, 174, 2021.	

第 57 回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(令和 4 年 2 月 20 日実施)

午後 問題	問題番号 (5)
<p>5 胸部単純エックス線写真 (別冊No. 2) を別に示す。 所見として正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 心拡大2. 胸水貯留3. 肺の過膨張4. すりガラス陰影5. 肋間腔狭小化 <p>解 : 3、4 (複数の解が選択できる)</p>	
<p>理由</p> <p>選択肢「1」、「2」、「5」は別冊提示のエックス線写真より所見として認められないため誤っている。 文献1、2より肺の過膨張の所見として「横隔膜の低位と平坦化、滴状心、肋間腔の拡大、胸骨後腔や心臓後腔の拡大が認められる」と記載がある。このエックス線写真では、横隔膜の低位平坦化と下葉の透過性亢進を認め、肺の含気量増加が疑われることから選択肢「3」は正しい。また、右肺の上葉で肺血管陰影が透見できるような淡く白い陰影を認めるため選択肢「4」は正しい。</p> <p>したがって、選択肢「3」と「4」の複数の解が選択できる。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療情報科学研究所：病気がみえるvol.4 呼吸器 第3版, 株式会社メディックメディア. p68, 2019.2. 奈良勲, 鎌倉矩子：標準理学療法学・作業療法学 第3版 内科学, 医学書院. p123, 2017.	

第 57 回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(令和 4 年 2 月 20 日実施)

午後 問題	問題番号 (25)
<p>25 観察に基づく評価法はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. AIMS2. AMPS3. COPM4. MMSE5. OSA II (Occupational Self Assessment II) <p>解：1、2 (複数の解が選択できる)</p>	
<p>理由</p> <ol style="list-style-type: none">1. AIMSがアルバータ乳幼児運動発達検査法を指している場合、観察に基づく評価といえる。2. AMPSは観察型のADL・IADLの遂行評価法である。 <p>したがって、選択肢「1」「2」の複数の解が選択できる。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1. 上杉雅之・嶋田智明・武政誠一：乳幼児の発達検査 AIMS アルバータ乳幼児運動発達検査法，医歯薬出版株式会社. pp26-31, 2010.2. 能登真一他 編集：標準作業療法学専門分野作業療法評価学第 3 版，医学書院. P234, 2017.	

第 57 回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(令和 4 年 2 月 20 日実施)

午後 問題	問題番号 (2)
<p>2 62歳の女性。くも膜下出血。回復期リハビリテーション病棟に入院している。</p> <p>CAT<Clinical Assessment for Attention>の結果(別冊No.1)を別に示す。</p> <p>結果の解釈として適切なのはどれか。2つ選べ。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 短期記憶障害2. 半側空間無視3. 持続性注意の障害4. 選択性注意の障害5. ワーキングメモリーの障害 <p>解: 5のみ(解なし)</p>	
<p>理由</p> <p>文献1、2より選択肢「1」、「3」、「4」は、別冊の結果よりカットオフ以上で障害と判定できないため適切ではない。また、選択肢「2」は、CATの検査では判定できない項目であるため適切ではない。選択肢「5」は、PASATの結果から判定可能であり適切である。</p> <p>したがって、提示された選択肢からは解を選択肢「5」の1つしか選べない。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1. 石合純夫: 高次機能障害, 医歯薬出版株式会社. p194, 2012.2. 長崎重信監修, 鈴木孝治編: 改訂第2版作業療法ゴールド・マスター・テキスト高次機能障害作業療法学, メジカルビュー社. p78, 2016.	

第 57 回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(令和 4 年 2 月 20 日実施)

午後 問題	問題番号 (68)
<p>68 体温について正しいのはどれか。2つ選べ。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 体温調節中枢は延髄にある。2. 末梢血管収縮で熱放散は低下する。3. ヒトの核心温度は体表で測定できる。4. 甲状腺ホルモンは熱産生を低下させる。5. 乳幼児は成人より体温調節機能が高い。 <p>解：2のみ（解なし）</p>	
<p>理由</p> <p>文献1～4より、</p> <ol style="list-style-type: none">1. 体温調節中枢は視床下部にあるため、選択肢「1」は誤っている。2. 末梢血管収縮で熱の放散を減らすため、選択肢「2」は正しい。3. 核心温度は直腸温によって知ることができる。核心温度に近いものとして腋窩温を用いるとある。また、腋窩温は厳密には核心温ではないとあり、核心温度は体表では測定できないため、選択肢「3」は誤っている。4. 甲状腺ホルモンは熱産生を増加させるため選択肢「4」は誤っている。5. 新生児は体温調節中枢機能が未発達のまま生まれてくるので、環境温によって体温が変動しやすい。安定してくるのは生後6ヶ月ごろからであるとあり、成人に比べると体温調節機能は低いいため、選択肢「5」は誤っている。 <p>従って、提示された選択肢からは、解を1つしか選択できない。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1. 奈良勲, 鎌倉矩子編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学. 第5版, 医学書院. pp193-197, 2019.2. 貴邑富久子, 根来英雄：シンプル生理学 改訂第8版, 南江堂. p162, pp332. 2021.3. 岡田泰伸監修：ギャノン生理学 原書25版, 丸善出版株式会社. pp375～377. 2017.4. 本間研一監修：標準生理学 第9版, 医学書院. pp911～912 2019.	